

2 コラム RAMPWAY
泉 麻人

特集 健康

5 **新しい医療の創造**
東京大学名誉教授
一般社団法人 日本統合医療学会 名誉理事長
一般財団法人 渥美和彦記念未来健康医療財団 理事長
渥美和彦

9 **現代医療の最先端**
ハーバード大学 医学部 客員教授
根来秀行

13 CHALLENGE
健康マネジメントの実践

14 Taste of the Season
森下典子

16 **首都高HEADLINE**

18 business essay
医療ツーリズムの可能性
多摩大学 医療・介護ソリューション研究所 教授
真野俊樹

20 つくる人まもる人
一般財団法人首都高速道路協会
田中信子 田端優美子 吉田久美子

22 高速百景 中野正貴

cover photo by Minoru Saito
contents produced by
Metropolitan Expressway Company Limited



illustration by Takao Nakagawa

column | RAMPWAY 21

首都高名所案内

千住の旧道歩き

コラムニスト
泉 麻人

荒川ぞいを走る首都高速の中央環状線は眺めの良いドライブラインだ。日光街道の千住新橋の北詰に同名の出入口がある。

千住（北千住）の町は東方の柳原あたりの商店街もいけれど、西方にもよく歩く散策コースがある。まずは「宿場（町）通り」の俗称が付いた旧日光街道。魅力的な居酒屋などが並ぶ通り

道を渡った先から（へいろは通り）の名を掲げて、ずっと先の方まで続いている。狭い道端に2階建クラスの古い商店が並ぶこの道、気に入っている。素朴な看板を掲げた洋服屋が目につく。窓越しに覗き見ると、ミシン掛けで仕立てをしているような家もある。しばらく進んでいくと、通りの名は（ニコニコ商店街）なんてのになる。方角的にみて、昔はこの先に「お化け煙突」（千住火力発電所）なんかが見えたのだらう。いかにも千住の奥座敷に入っていくような間道だ。

右手の路地に目をやったとき、道の突きあたりに大きな三角屋根の建物が見えた。一見、お寺のようなこの建物、「タカラ湯」という戦前からの銭湯。少し南方にある「大黒湯」とともに千住キング・オブ・銭湯と称される2大物件なのだ。当日は、よく晴れた初夏めいた日和。午後3時前の銭湯の玄関先には、開店待ちの老男老女たちがピクニックのように座りこんで、ダベっていた。

このあたり（千住元町、千住大川町）の路地を南方へ行くと、町名は千住柳町に変わって、（おおもん）の名を掲げた商店通りに行きあたる。おおもんは「大門」で、浅草の吉原ならった

遊郭地を表わすものだろう。千住柳町の界隈は江戸の千住宿の頃からの花街で、名残りの旅館は昭和30年代に学生の下宿屋に変わったというが、いまはその面影もない。ただし、日光街道の方へ続く商店街にはアナゴ寿しの旨い「双子鮎」とか、古めかしい米屋の建物とか、こちらもなかなか歩きがいのある千住の間道の一つ（「大黒湯」はこの道ぞいにある）。

ところで、先にもふれた「お化け煙突」は今歩いたいろは通りや大門通りが墨堤通りに突きあたる千住桜木の尾竹橋の端に存在した。千住火力発電所の4本の煙突は（上から見て）平たい菱形のように配置されていたため、場所によって煙突が重なって、3本、2本……と数が変わる。

その姿は「煙突の見える場所」や「いつでも夢を」などの戦後の名作映画で眺めることができるけれど、いま残っていたら、首都高速中央環状線の名所になっていたに違いない。

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。「週刊TVガイド」などの編集者を経て、フリーのコラムニスト。近著に『大東京23区散歩』（講談社）がある。